



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION 1 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST

理事通信 2023年 6月号

編集 & 発行・西日本区理事事務局

- 理事メッセージ
- 日本区強調活動
- 今月の聖句
- 各部だより
- 沖縄新風クラブC N報告
- アジア太平洋地域
ユースコンボケーション案内
- キャビネット便り

◇主題 **原点を知り将来に生かす！**
Know the origin and utilize it in the future!

◇副題 **立ち上がれワイズ モットーと共に！**
Stand up Y's Men with our Motto!



第26代 西日本区理事

田上 正

西日本区大会実行委員会は月1回のペースから、週1回ペースへとフル回転始めた。また理事キャビネットと事業主任のWEB会議も月に2回以上開催しないと準備が間に合わない。今年の5月の連休は、3日間は診療当番となり、そのほかの日は西日本区大会懇親会ワイズ劇団で使う衣装づくりに没頭した。

直前になるにつれ忙しくなるのは分かっているが、予想もしないことも生じる。4月のスーダン内戦時には、西日本区大会で特別講演をお願いしている川原尚行ロシナンテス理事長（医師）が無事に帰国できるだろうかと心配した。5月17日にやっと連絡がついた。川原尚行氏の講演のタイトルが「スーダンに再び笑顔を！ ～いま、私たちに出来ること～」に決まった。

4月19日には第3回東西日本区交流会の反省・総括の会がWEB開催されたが、その際5年に1回ぐらいは東西日本区大会ができないかとの提案があった。一晩中でも語り明かせる東山荘での開催は確かに魅力がある。

5月14日はラオスにYMCAを！の決起集会に京都を訪問した。社会システムの異なる国でのYMCA活動の困難さを感じるが、希望がある限り追い求めたいと思う。

5月27日、沖縄新風（みーかじ）ワイズメンズクラブのチャーターナイトが開催された。新しいメンバーが増えることに感謝し、これからのワイズダム的发展、東西日本区的发展とメンバー及びご家族の皆様のご健勝を祈りたい。

理事のひとこと 「男のロマン」

12回目の「ひとこと」にはメネットがいつも聞かされて呆れている「男のロマン」を書かねばならない。30年ほど前、当時所属していた熊本ジェーンズクラブの加藤國博会長の会長主題「夢を語り合い、それを現実（かたち）に」に心を打たれた。以来、とんでもない？ ことをする時、メネットの質問「何であるあなたがしなきゃならないの？」には「男のロマン」と答えている。

東京医科大学に行った時も「男のロマン」、西日本区理事を引き受ける時も「男のロマン」、お金を沢山使う時も「男のロマン」で済ませてきたが、一昨年の膝腫瘍事件（精密検査、生検で良性と診断）やドバイでの熱中症事件、昨年の心房細動とアブレーション手術、今年2月の熊本城マラソン第三関門で失格など、男のロマンでは片付かない現実問題に直面した。

健康あつてのワイズだからとは思いますが、次から次への課題が押し寄せても「男のロマン」。深夜に呼び出しを受けて往診に飛び出す時も「男のロマン」である。

7月からは少しだけ肩の荷を下ろそうと思う。次の「男のロマン」が始まるまで。…とここまでは、かっこよく書いてはみたが、「男のロマン」とは「男のわがまま」ということに気づき始めた。

西日本区強調活動

評価と引継ぎ

6月

この1年間当初の目標にしていた活動ができましたか？ できたクラブはさらに発展させましょう。できなかったクラブはどこに原因があり、何を改善すれば良いのかを話し合いましょう。クラブの反省会や研修会、引継ぎ会はクラブのメンバーに成長をもたらします。

田上 正 理事（熊本むさしクラブ）



今月の聖句

あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。

マタイによる福音書7章3節



「裁くよりも」

西日本区チャプレン 立野 泰博

イエスは「人を裁くな」と教えられました。その理由は「あなたがたも裁かれないため」と言われています。

小さい頃、「人を指差すと、悪いことが三つ返ってくるのだよ」と祖母が教えてくれました。そして、人差し指を相手に向けて、中指、薬指、小指が自分の方を指していることを自分の手で見せてくれました。

普段の生活で、自分の思い通りにならないことや、腹が立つことはたくさんあります。自分ではなく他者のせいにして「お前が悪い」と人に指をさしています。その時、祖母が教えてくれた言葉を思い出して手を見ると自分に向かっている3本の指に気がつきます。自分はどうかを3倍にして考えてみよと言われていたようです。



イエスは、「裁く」ことは神におまかせし、まず自分をかえりみることを教えています。自分に見えていない自分の大きな丸太に気がつくようにといわれるのです。人のことを指差すよりも、自分に向かっている3本の指で3倍もの悔い改めをしたいものです。

中部

デイキャンプ交流会
YMCA・ワイズフェスティバル

部長 山内ミハル

4月22日（土）10：30～15：00 名古屋戸田川緑地 子どもキャンプ広場にて、名古屋YMCAとワイズメンズクラブ中部主催によるデイキャンプ交流会が開かれました。

3月に実行委員会が組織され、同月2日第1回実行委員会が開催されました。

昨年同様、今期も参加呼びかけはワイズメンとその知人、YMCA職員・ユースリーダーの他、元リーダー、子どもたちとその保護者などYMCAと縁のある方とすること。YMCAへの理解をひろめること、ワイズメンズクラブの会員増強を目指しています。

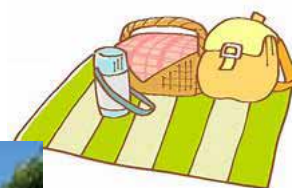
広報担当、募集・登録担当、会場・用具・遊具担当、会計・受付担当の他、食事、お茶・水、歌・ゲーム、綿菓子等の係も決められました。その後何回か実行委員会を開き、各担当・係から進捗状況を報告しながら着々と準備が進められ、当日は100余名の参加を得て、天候にも恵まれ、楽しい1日を過ごしました。



ワイズメンバーとユースリーダーによるキャンプソングの披露と指導



ユースリーダーたちも彼らが調理したカレーに舌鼓を打って



全員で記念撮影

5月14日（日）に“ウナギの森植樹祭”が高槻森林観光センターで開催されました。

当日は小雨が降ったり止んだりする天候でしたが、植樹時は雨も止みたくさんの山桜ともみじを植えることが出来ました。

2015-16年度の中西部部長・奥田時夫ワイズがワイズの皆さんと一緒に出来る事業として植樹祭を計画しましたが、独自で行うには適地がなく、2014年から大阪府木材連合会がやっていた“ウナギの森植樹祭”に協賛する形で2016年から参加することになりました。

“ウナギの森植樹祭”は川の上流で植樹することにより山が豊かになり、山が豊かになることで川や海が豊かになり、うなぎが育つという事業です。SDG'sにも合致した事業です。

今年、皆さんもご存じのグリコのネオンがある道頓堀川で天然のうなぎが12匹取れたそうです。地道な取り組みが結果となって出てくることは大変うれしいことです。

今年は天候がもうひとつだったので当日のキャンセルがあったりしましたが、ワイズの仲間達が14名参加してくれました。全体では100名の参加者が集いました。苗木を寄付する方の賛同も有りワイズで36本の苗木を植樹しました。全体では150本以上の苗木が植えられました。

大阪府木材連合会さんも事業の継続等を考えられ、今年NPO大阪・ウナギ植樹実行委員会を設立され中西部も正会員としてNPO法人に参加することにしました。

これからも“ウナギの森植樹祭”が継続することが大切だと改めて認識しました。



中西部

Part 2

大阪センテニアルクラブ 40周年記念
音楽例会が開催されました

部長 福島 眞一

5月20日（土）に梅田Alwaysで大阪センテニアルクラブ40周年記念音楽祭例会が開催されました。

今年中西部は“楽しい！”と“コミュニケーション”をキーワードとして運営されていて、期末にふさわしい楽しさがあふれる、笑顔があふれる例会でした。

九州部から上村眞智子西日本区書記、京都部・阪和部・六甲部から、そして中西部からも多くのワイズが参加してくださいました。総勢68名が揃いました。また、インターネットでIBCの香港とハワイのクラブにも中継した例会でした。

センテニアルの40年の歴史が映像で流れた後、音楽祭が始まりました。最初は阪和部の恵美奈バンドによる昭和歌謡を皆さんで大合唱、盛り上がりました。続いて京都部からの大野ファミリーバンド、六甲部から石田フラチームとハネリマカヒキウクレレのハワイアンとフラダンス。最後はセンテニアルクラブの芝田会長率いるカントリーウエスタンバンドBACKWOODS MOUNTAINNEERSによる楽しい演奏が続き、出席した皆さんは大満足した一日でした。





『ミュージカルと講演で平和の大切さを訴えるイベント「子どもたちの平和な未来を考える」が5月21日、宝塚のソリオホールで行われる。青少年健全育成を目指し、YMCAの活動を支援する「宝塚ワイズメンズクラブ」の創立35周年記念事業。第1部で、被爆体験を継承する高校生らを紹介するノンフィクション「平和のバトン」などの著書があるジャーナリスト、弓狩匡純さん（宝塚市出身）が「過去に学び、未来を描く」と題して講演する。第2部では、被爆二世の木原世有子さん作・演出の平和創造劇・ミュージカル「I PRAY」を上演。原爆が投下された広島の様状と復興の歩みがテーマで、広島の子どもたちを中心としたグループが演じており、国内外で評判が高い。』

これは5月17日、読売新聞に掲載された広報記事のコピーです。当日は好天に恵まれお客様の出足は順調で、定員300人のホールに、大人179名（内訳：ワイズ約50名・一般約130名）、高校生以下の子ども55人来賓10名と宝塚クラブ関係者30名を含め合計274名が会場を埋めました。出演は講師1名、IPRAY出演の子ども17名と関係者7名でした。

イベント終了後の嬉しい反響から会場の様子をイメージしてください。



講演会の模様

○小学校の女子生徒：ダンスを習ってるのでミュージカルに興味があつて？
講演の時はゴソゴソしてたんだけどね、劇になると静かに観てました。一瞬で全て

が変わってしまうのが戦争なんだね。怖かった。最後の場面です。小さい子達が生懸命踊ってたのにはニコニコして観てましたよーありがとう！

○宝塚の被爆者：感動の涙涙でした。男性のお客が多いのにびっくり。高齢者が多い被爆者の会は解散したけれど、個人的にはまだまだがんばるので、また逢いましょうね。

○80代男性：大成功、おめでとう！講演もよかったし、I Prayには、感動！意義ある記念企画だったね！

○ワイズ仲間：宝塚ワイズ35周年おめでとうございます。講演から原爆を再認識しました。講師の先生本で勉強します。平和の祈りのミュージカル、子供たちのすはらしさに涙でした。ありがとうございます、感謝です。

○IPRAY 理事長・福山クラブ会長 上久保ワイズ：昨日は大変意義深い1日を過ごし、皆さんと共に感動の時を共有させていただき、忘れられない思い出となりました。この思い出、出来事、実践の足跡は素晴らしく、点に終わらせず線として伸ばし繋ぎ、立体に形づくられるようにもっていきたいですね。ワイズはいいですね。再会や出会い、交流の機会をつくってください。IPRAY理事長として福山クラブ会長として、心から感謝申し上げます。

○IPRAY 作・演出者 木原ワイズ：この度は去年広島（西中国部部会）で子供達のダンスを見ていただいたのがご縁で、宝塚ワイズの35周年記念のこのような大きなステージに呼んでいただき心よりお礼を申し上げます。お弁当だけでなく子供達にお菓子やボールペンまでいただきみんな喜んでおります。帰りはほんのしばらく静かでしたがステージの興奮が冷めず歌ったりお

話ししたりでした。月曜日、子供たちは元気に早く起きて学校に行ったそうです。広島G7の時にIPRAYの公演ができてとても意義あることと思います。大変なところいろいろ心配りありがとうございました。裏方の手伝いの保護者やアシスタントもなんと温かい方達でしょうと申しておりました。いつもだと私はバタバタイライキリですが、皆様の暖かさの中こちよく本番を終えることができました。感謝申し上げます。またお会いできる日を楽しみにしております。



原爆の閃光に目を覆う子どもたちの迫真の演技に固唾を呑む

宝塚クラブにとって、このようなテーマを掲げるイベントは初めての取組となりました。出演者と同世代の子どもたちを沢山招き見てもらいたい、私たちと同じような社会活動をしている団体・グループとも共有したいなど、背伸びをした企画でしたが、あちこちに未熟さを感じました。ワイズメンズクラブ西日本区スタッフのご理解・ご支援をいただき、背中を推されたように思いました。ありがとうございました。



IPRAYのフィナーレワイズも舞台上がって「いのちの歌」を熱唱

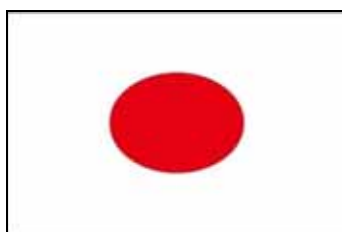


私は部長就任直後から、区内各クラブから送られてくるブリテン記載の西日本区ロゴやエンブレムの形が壊れていることが気になっていました。

「ロゴ」という言葉は比較的浸透している言葉で、Tシャツの左胸や半袖の袖口に印されているものを良く見掛けます。その目的は、その製品のメーカーを明確にして、品質を保証するという姿勢を表しているものと言えます。「ロゴ」の反意語が「カオス；混沌」であると聞けば、ロゴを印す目的は明らかとなるでしょう。

当然、ワイズメンズクラブでもロゴは定められています。ここでは、ロゴタイプ・ロゴマーク・エンブレムというロゴに係わる用語の説明は省略して、包括的にロゴについての私見を述べさせて貰います。

来年夏、7月下旬から8月上旬にかけてパリでオリンピックが開催されます。大谷翔平の例を挙げるまでもなく、最近の日本の若者のスポーツ分野における活躍は目覚ましく、来年もいくつものメダルを獲得してくれることが期待されます。その表彰式において、縦に潰れた日の丸や、オレンジの日の丸が掲揚



されたら、多くの日本人はがっかりし、怒ることでしょう。日本の場合、戦後の平和教育で日の丸に対して不当な嫌悪感を抱く人も多いことから、余り気にしないという人もいるかも知れませんが、日の丸は言うまでもなく日本の国旗であり、日本という国を表すロゴマークです。

ワイズのメンバーであれば、ワイズが嫌いという人は居ないでしょうから、是非、ワイズのロゴを大切にしたいものです。ワイズロゴが正しい形であるか否かを確認することは実は簡単で、ロゴに含まれる三角形が正三角形の倒立した形であることです。正面から、左60°から、右60°から見て正三角形であれば、ロゴの形は崩れていません。皆さんのクラブのブリテンや記念例会等のパンフレットに使われているワイズのロゴやエンブレムはちゃんと正三角形になっていますか？ 間違った色使いにはなっていませんか？ 西日本区HPの資料庫にlogoのページが有り、正しいlogoと色使いが示されています。再度点検して、誇りあるワイズのロゴを崩さないようにしましょう。





沖縄にふたつ目のクラブ

「沖縄新風クラブ」誕生！

2023年5月27日（土）午後7時から、ダブルツリーバイヒルトン首里城において、沖縄新風（みーかじ）ワイズメンズクラブ国際加盟認証状伝達式が執り行われました。日本YMCA同盟主任主事の有田征彦氏、沖縄YMCAから真栄田篤彦理事長と長峰将邦事務局長のご出席を頂き、沖縄クラブから5人の転入と新メンバー5人を加えた10人でのスタートを参加者全員で祝い、和やかな雰囲気沖縄の夜が更けてゆきました。

沖縄新風ワイズメンズクラブチャーターナイト開催を祝して

西日本区理事 田上 正
(熊本むさしクラブ)

沖縄新風ワイズメンズクラブ国際協会認証状伝達式開催、誠におめでとうございます。沖縄クラブのチャーターナイトの日に、新クラブ設立を宣言され、3月28日には設立総会を開催、そして本日にチャーターナイトを迎えられました。金武朝成会長を中心に参集された志の高い皆様の情熱が実を結んだ結果と存じます。

私たちの根底には「弱き者に寄り添い愛を以て手を差しのべる」崇高な目的があります。スポンサーの沖縄クラブと共に沖縄部の創設に向けて第一歩を踏み出されることを心から祈念致します。

沖縄クラブ会長 手登根 正ワイズ 祝辞

3月に沖縄新風クラブの設立総会を無事に終え、設立総会からその2か月後の本日、沖縄新風クラブとして新しいクラブを生み出せることを、非常にうれしく感じております。

新クラブは、沖縄クラブから数名移籍して、東日本区時代の旧沖縄クラブのメンバーが参加するもので、まるで双子の弟が少し遅れて誕生したような気分であります。2つのクラブは、同じDNAを持ち、同じ方向性に進める頼もしいメンバーが揃っていることは、親クラブとなりました沖縄クラブにとりましても、大変うれしいことであり、新しい体験の始まりとなりました。新クラブが誕生して沖縄に2クラブが存在することとなりますが、これからは、ワイズの働きをより活発にするため、先ずは、沖縄YMCAとの関係を深めてまいります。

更には、沖縄県内の子どもたちのために、沖縄本島を取り囲む島々の子どもたちは、地域に図書館がないことが多く、『本』に接する機会が少ないため、離島地域を船舶と自動車巡回できる『移動型の巡回図書館』を展開してはどうかとの提案が事前例会でなされ、今後、この案件は、ワイズのアクションプランに入れて、行政を巻き込んで推進していくことになりました。この案件は、まさに、これから生まれてくる新クラブ「沖縄新風ワイズメンズクラブ」との共同事業として推進

してまいります。この事業を通じて、離島地域の子どもたちが本に触れる機会を持ち、子どもたちの基礎的な学力向上につながり、本を読む楽しさを知る機会の提供をできればと考えております。

このようにして、これからは、沖縄という狭い地域の中での活動を、沖縄2クラブが互いに連携をして、お互いを高め合うことで、ワイズダムの前進に繋がるように、新クラブの金武会長とも連携を充分にとりながらワイズメンズクラブとしての役割を果たして参ります。新クラブともども、よろしくお願いいたします。

金武会長



アジア太平洋地域ユースコンボケーション 2023 参加者募集!

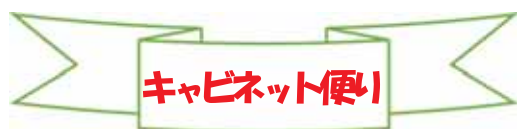


アジア太平洋地域ユースコンボケーション 2023 実施要領

1. 日 時 : 2023年8月25日(金)～29日(火)
2. 場 所 : Pauwa Hotel ネパールのポカラ (カトマンズより西へ200キロ)
3. テーマ : 「共に輝き力強く成長しよう」
4. 参加資格 (1) 参加者は18歳から35歳であること
(2) 参加者はすべてのプログラムに参加すること
(3) 参加者は基本的な英語を理解し、他の人々と積極的に意思疎通をはかれること
5. 登録費用と支払い
登録費はUS\$ 220 参加者は区へ支払い、区はエリアの口座へ送金すること
*参加費に含まれるもの 朝食4回、夕食4回、ホテル室料、諸経費
*アジア太平洋地域より一人当たりUS\$60を助成します

6. プログラム概要

月 日	主 な 活 動
8月25日(金)	午前: 参加者到着/登録 午後: 1 開会式とオリエンテーション 2 Session 1: 明確なリーダーシップ 3 文化発表 (各地の食べ物や人気のあるゲームなど)
8月26日(土)	午前: 自然を求めて(ツアー) 午後: 1 Session 2: 奉仕プロジェクトの計画と準備 2 文化発表 (各地の音楽や踊り)
8月27日(日)	午前: Session 3: より良い世界への提唱: 健康、教育、環境問題におけるユースのリーダーシップ 午後: 1 地域訪問 2 交流会 / 出し物など
8月28日(月)	午前: Session 4: Global Impact, Local Solutions: 効果的なパートナーシップを築くには 午後: 1 AYR 2023-2024 の選挙 2 市内観光 3 閉会式
8月29日(火)	閉会式、昼食、出発



西日本区大会まで あと



今回は、伊藤大会実行委員長からのメッセージをご紹介します。

第26回西日本区大会実行委員長 伊藤 七海
(熊本水前寺クラブ)

1年以上の時間をかけて準備してきた西日本区大会もとうとう終盤に差し掛かってきました。

お忙しい中、ご登録いただきましたワイズメンの方々に心から御礼申し上げます。最終、633名のご登録をいただき、大会を迎えられることに安堵しております。

皆様方の熱意と関心が、大会を一層充実させるものと確信しています。

この大会では、「地域から世界へ 私たちが目指す共生社会」というテーマを掲げて、南スーダンで医療活動を行っていらっしゃる川原尚行先生のご講演、又、熊本から何かを変えようと頑張っている若者の紹介を行います。

皆さまのご期待に沿う2日間になるようにと大会実行委員一同、頑張っております。ここ熊本の地で、皆様にお会いできることを心から楽しみにしています。

2022年7月に理事通信7月号を出して、あっという間に2023年6月最終号となりました。1年間、理事通信をお読みくださいました皆さまに、心から感謝申し上げます。

田上理事の巻頭文の最後に掲載される「理事のちょっと一言」を楽しみにされているファンが出来、立野チャプレンの「今月の聖句」は心に深く響くものがあり、各部便りでは部長の皆さまのご協力のお陰で多くのクラブ活動のご紹介が出来ました。ご寄稿下さいましたワイズメン&メネットの皆さま、本当にありがとうございました。

西日本区内外のワイズ活動のご紹介と同時に、西日本区大会へ多くのワイズメンに参加して頂けるようにと、熊本の食・酒・観光・熊本城の現況・体感関係施設(熊本YMCA本館・熊本城ホール) 等など紹介して参りました。熊本にお越しになる際に、もう一度今までの理事通信をお読み頂けたら、熊本をもっともっと楽しんで頂けると確信致しております。

理事通信HPやFB掲載時には大槻信二広報・情報委員長、石津雅人委員に大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

又、レイアウト全体に心を砕いて美しい紙面作りにご尽力下さいました平山美保メネット、本当にありがとうございました。

理事通信編集長 上村眞智子
(熊本ジェーンズクラブ)

